

みんなで支えあい、顔と顔でつながるまち 泉佐野

すべての市民が地域でいきいきと暮らせるよう、市民一人ひとりが「やさしさとふれあい」でつながり、市民・事業所・社協・市が地域の課題を共有し、解決に向けて共同するまちをめざします。

- “みんなで”とは、すべての市民を表します。子どもから高齢者まで、この計画はみんなが主役です。
●“支えあい”とは、身近な地域づくりを示すとともに、市全域における「地域福祉」そのものを表します。
●“顔と顔”とは、呼びかけを示すとともに、日頃の見守り・気配りを表します。そして、互いに理解し合う心、地域福祉の大切さを知る心を表します。
●“つながる”とは、地域福祉ネットワークを示すとともに、市民・事業者・社協・市の連携による計画の推進性・継続性を表します。

基本目標 1

みんなで「参加」しよう！

- すべての市民が関わり合えるまちづくりを進めるために、参加しやすい地域づくりを進めます。
●若い世代や情報が届きにくい人たちも含めたすべての市民に対し、情報提供、情報発信に努め、みんなに参加を呼びかけていきます。
●子どもから高齢者まで世代を超えた交流を通じ、心も体も元気に暮らせるまちをつくりま

基本施策

(1) みんなが「いつでも参加しやすいまち」をつくらう

- ①声かけ・あいさつの推進 ②参加しやすい地域づくり
成果目標 近所づきあいの頻度が高い人の割合
H25 79% ⇒ H29 80% ⇒ H32 85%

(2) みんなに「参加を呼びかけるしくみ」をつくらう

- ①市民による主体的な参加呼びかけ ②地域情報の発信
成果目標 地域の行事に参加したことがある人の割合
H25 67% ⇒ H29 70% ⇒ H32 75%

(3) みんなが「交流できる機会」をつくらう

- ①世代を超えた交流機会づくり ②地域の団結・生きがいづくり
③地域の主体的な健康づくり
成果目標① 家族や学校の友達以外とよく話す児童の割合
H25 27.8% ⇒ H29 30% ⇒ H32 35%
成果目標② 障害のある人と一緒に行動した経験のある人の割合
H25 20.3% ⇒ H29 25% ⇒ H32 30%

基本目標 2

みんなで「支えあいのまち」をつくらう！

- ヒト・モノ・情報といった身近な資源を活用し、これらをつなげることで一人暮らし高齢者や、障害のある人、子育て家庭などといった、支援を必要とする人たちを日頃から見守り、災害など緊急時においても地域で支えあえる、安心安全のまちをつくりま

基本施策

(1) みんなで地域の資源を把握し「社会資源マップ」をつくらう

- ①地域の社会資源の把握・情報共有のためのマップづくり
成果目標 社会資源マップの作成地区数
H25 データなし ⇒ H29 2地区 ⇒ H32 5地区

(2) みんなで「支えあえるしくみ」をつくらう

- ①地域における支えあいの促進 ②小学生・中学生のボランティア活動への参加の促進
③高校生・大学生のボランティア活動の推進と大学との地域連携 ④NPO・ボランティアなどの活動の活性化
⑤民生委員児童委員活動の充実 ⑥同じ課題を抱える人のネットワークづくり ⑦安定的な地域の自主財源の確保
成果目標 ボランティア活動者数(ボランティア保険加入者数)
H25 2,294人 ⇒ H29 2,500人 ⇒ H32 2,700人

(3) みんなで「安全・安心のまち」をつくらう

- ①防災の推進 ②福祉避難所の整備 ③防犯・交通安全の推進
④平常時からの見守り活動の推進 ⑤買い物支援・移動支援の充実
成果目標 地域の絆づくり登録制度同意登録者の個別計画作成割合
H25 データなし ⇒ H29 50% ⇒ H32 75%

基本目標 3

みんなの顔が「つながるしくみ」をつくらう！

- 市民だけでなく、ボランティアや社協など、様々な機関・団体がすき間なくつながることで、家庭で抱えきれない困りごとを地域につなげる仕組みをつくりま
- 地域で対応できない問題を適切な専門機関に相談、つなげる仕組みをつくりま
- 課題を抱えた人を発見し、必要な時に必要な支援・サービスを適切に受けられる仕組みをつくりま

基本施策

(1) みんなが「つながるネットワーク」をつくらう

- ①要援護者を発見し、地域とともに支えるネットワーク ②e-フィネットのための地域福祉ネットワーク会議の設置
③専門機関によるネットワーク
成果目標 地域福祉ネットワーク会議での課題解決案件数
H25 データなし ⇒ H29 2件 ⇒ H32 4件

(2) みんなが「相談しやすいしくみ」をつくらう

- ①地域福祉のワキ斯塔 相談窓口の設置 ②生活困窮者に対する自立相談支援
成果目標 CSWの認知度
H25 24.2% ⇒ H29 35% ⇒ H32 50%

(3) みんなで「権利擁護のしくみ」をつくらう

- ①権利擁護の推進 ②市民による後見活動の推進 ③虐待防止対策の推進
成果目標 権利擁護支援センターの認知度
H25 データなし ⇒ H29 30% ⇒ H32 50%

(4) みんなが「安心できる福祉サービス」を充実させよう

- ①安心して福祉サービスを利用できる体制づくり ②福祉サービス事業者の連携強化
成果目標①② ①障害福祉サービス利用者・②介護保険サービス利用者の満足度
H25①70.3%②77.8% ⇒ H29①72%②80% ⇒ H32①74%②82%

基本目標 4

みんなで「地域の土壌づくり」をしよう！

- 地域福祉のまちづくりを進めるために、その土台となる市民意識を高め、子どもから大人まで生涯にわたって、学習活動ができる環境を整えます。
●障害があってもあたりまえに生活ができ、すべての市民が地域でいきいき暮らせる共生社会の実現に向けバリアフリーを進めます。
●お互いに理解しあうことで、みんなが活躍でき、いつでも集うことができる地域をつくりま

基本施策

(1) みんなで「暮らしやすい地域」をつくらう

- ①福祉意識・協働意識の向上 ②ユニバーサルデザインの推進
成果目標 ユニバーサルデザインの認知度
H25 44.8% ⇒ H29 50% ⇒ H32 55%

(2) みんなで「集える場所」をつくらう

- ①各圏域での地域福祉拠点づくり
成果目標 気軽に交流できる場所が身近にあると思う人の割合
H25 データなし ⇒ H29 25% ⇒ H32 50%

計画の推進体制

- 地域福祉の推進体制・・・本計画の進捗状況の確認や定期的な評価を行うための機関として「泉佐野市地域福祉推進審議会」を設置し、原則年1回以上開催し、本計画に基づく施策について実行性を持って推進していきます。
●計画の普及啓発・・・市の広報紙やホームページ、社協の広報紙やホームページを活用し、本計画の普及とその取組みの周知に努めます。また、各地区において住民座談会「地域の暮らしを話す会」を毎年度開催し、計画の普及をはじめ地域から出される新たな課題を本計画見直し時に反映していきます。
●計画の進行管理・・・計画期間の成果目標や活動指標を設定し、PDCAサイクルによる進捗状況の管理を行います。